

レセプト、脳障害触れず

東京女子医大手術ミス事件 改ざん記録と符合

東京女子医大病院(東京・新宿)の手術ミス事件で、証拠隠滅容疑で逮捕された瀬尾和宏容疑者(46)が人工心肺装置のトラブルが原因で起きた脳障害を治療していたにもかかわらず、診療報酬明細書(レセプト)で説明していなかったことが八日、分かった。改ざんした診療記録に合わせたとみられ、ミスの隠ぺい工作は徹底していた。

レセプトは手術ミスで亡くなった平柳明香さん(当時12)の父親、利明さんがミスが起きた昨年三月分について開示を求めていた。

レセプトに添付されて

いた治療を行った経緯を説明する「症状詳記」は担当医だった瀬尾容疑者が記載。

人工心肺装置に関する部分では「人工心肺からの離脱を試みたところ、中心静脈圧の上昇が認められた」とだけ書かれ、装置トラブルで起きた脳障害を治療するため行った低体温療法などに関する説明は全くなかった。

女子医大小児心臓手術事故

改竄・レセプト開示

2002年7月9日 日経新聞